

科目番号	1603	領域区分	助産学領域	
学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
1・2	前期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	助産学教育特論 (Special Topics in Midwifery Education)			
担当教員名	米山 万里枝			

授業の概要及び到達目標

本科目は、看護教育実践の基礎となる考え方や知識を培い、助産師教育の歴史的変遷と教育的課題、助産ケアの対象に対する教育的関わり、組織における教育機能など多面的に教育をとらえ、教育者に必要な技能や資質とは何か、経験を教材として探求的な学習を加えながら、学習者の教育観・教育実践について再発見・再構築することを目的とする。

助産師の教育的役割と機能は多岐にわたる。例えば、助産ケアの対象への教育的関わりは個別・集団を対象とした保健指導、健康の維持増進や健康逸脱への予防、健康問題を抱える対象へ患者教育など、エビデンスに基づく教育・指導内容の精選、指導効果を高めるための、専門家としての力量が問われている。また、新人教育など組織における現任教育や、臨地実習の学生に対する臨床指導など、教育者に求められる役割や技法は変革を求められている。経験知そして暗黙知を語り、教育観を再構築する。

準備学習等

【授業：講義・プレゼンテーションの準備学習】

以下の課題を予習しプレゼンテーションできることを前提に講義を進めるので事前学習をしておくこと。提示された事前学習に取り組み、討論の準備をして授業に参加すること。

- 1～2 回 わが国における助産師教育の歴史的変遷（教育課程の変遷）
 - ・助産師教育の歴史的意義と課題、独自性、複雑な教育課程、教育方法と教育評価
- 3～4 回 助産教育課程のカリキュラムの構築（プレゼンテーション）
 - ・わが国における助産教育課程の実際と課題、カリキュラムの構築
 - ・助産師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ（必要条件）
- 5～6 回 臨床事例を教材として、健康教育・保健指導を検討する
(GW・プレゼンテーション)
- 7～8 回 現任教育・助産師の継続教育を検討する (GW)
- 9～10 回 学ぶこと、教えること、学習、教育とは何か (プレゼンテーション)
- 11～15 回 臨床事例を教材として、保健指導・新人教育を検討する
(GW・プレゼンテーション)

講義・プレゼンテーション後にはテキストや講義資料等の復習をし、提示されたレポート等に取り組むこと。

成績評価の方法	プレゼンテーション内容 50%、終講時レポート課題 50%
テキスト	助産師業務要覧 1 基礎編（福井トシ子, 日本看護協会出版会）
参考図書	1. エミール上・中・下（ルソー, 岩波文庫） 2. 看護学教育における授業展開：質の高い講義・演習・実習の実現に向けて（舟島なをみ, 医学書院） 3. 「育てられる者」から「育てる者」へ（鯨岡峻, NHK BOOKS） 4. 経験と教育（ジョン・デューイ） 5. 教育評価 第2版補訂2版（梶田 叡一, 有斐閣双書）
備考	経験を教材に教育とは何か、理論や議論を重ね過去の経験を論理的に再構築する。

授 業 計 画

【到達目標】

1. 学習者の教育観を説明できる
2. 助産教育課程のカリキュラムを構築できる（大卒後の1年専攻科課程の教育カリキュラム）
3. 臨床事例を教材として、教育的機能と役割について考察できる（教材：健康教育・保健指導）
4. 臨床事例を教材として、組織における教育的機能と役割について考察できる（新人教育・継続教育）
5. 教育について自らの被教育体験を振り返り、臨床の場の事例に対する教育・指導の在り方を再構築できる

【授業計画】

- 1～2 回 わが国における助産師教育の歴史的変遷（教育課程の変遷）（講義）
・助産師教育の歴史的意義と課題、独自性、複雑な教育課程、教育方法と教育評価
- 3～4 回 助産教育課程のカリキュラムの構築（プレゼンテーション）
・わが国における助産教育課程の実際と課題、カリキュラムの構築
・助産師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ（必要条件）
- 5～6 回 臨床事例を教材として、健康教育・保健指導を検討する
（GW・プレゼンテーション）
- 7～8 回 現任教育・助産師の継続教育を検討する（GW）
- 9～10 回 学ぶこと、教えること、学習、教育とは何か（プレゼンテーション）
- 11～15 回 臨床事例を教材として、保健指導・新人教育を検討する
（GW・プレゼンテーション）